

○小寺琢朗所蔵文書

札幌市白石区もみじ台北二丁目一―

一八 鳥羽久友外四名連署起請文案

(端裏書)

「案文」

至今度芸州、各被召下候、然は当家無二三可被作救立旨、元春様不被殘御内証、重畳被仰聞事候条、罷上有

(毛利輝元)

(南条)

躰之申分候キ、乍勿論吉田様并元春様え元統御身上、又御家来之儀ニ付而和議之段、一言も申上子細無之候、且御家之為ヲ存知、且各身躰之為を存知、聊無別儀候、於向後自然何かと申族御座候者、旨趣被仰知、又自是も可得御意候、若右之旨於偽者、梵天帝釈・四天王、惣而日本国中大小神祇、当国一宮大明神、大山地蔵権現・三徳山三所権現・杵築大明神、殊氏八幡大菩薩摩利支尊天・天満大自在天神、可蒙罷御罰者

(紙)

也、仍誓帟如件、

(一五七六)

天正四 十月十六日

鳥羽安芸守

久友

南条備前守

信正

泉養軒

長清

津村新兵衛尉

基信

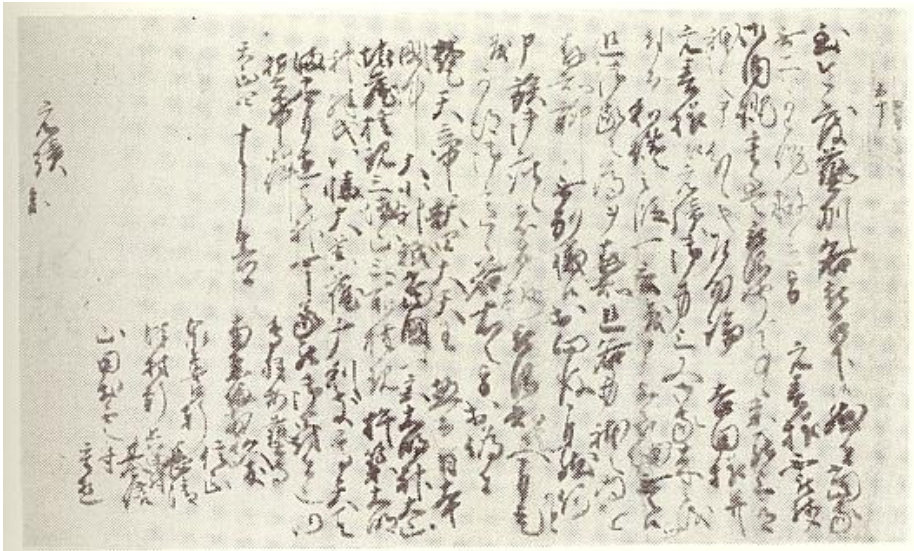
山田出雲守

重直

(南条)

元統

参



鳥羽久友外四名連署起請文案

一九 毛利元就書狀

尚々其方氣遣辛勞之段令推量候、祝着之至候、小木工・山平にも此由能々可申候く、以上、去月廿五日之折紙到来、披見候、

(山名祐豐) (陣)

一、去廿三日、但州衆至徳吉陳替候而、大坂・宮吉可被相動之由候、就其小木工・山平其外其方已下、至宮吉入城之由候、誠無油断堅固之覺悟、尤可然肝要候、定而不可有異儀候条、珍重候、

一、自爰許加勢之事、心得候、人数追々可差上候、一切不可有油断候、可心安候く、

一、鉄炮二三十先昨日差上候、定而可為到着候、

(南条)

一、為始宗勝、伯州各無二之覺悟之由、乍勿論尤專要候、

一、八橋城衆之儀、先五十六十之間、是も昨日差遣候、可心安候、其許之様躰切々可有注進候、何篇不可有遲滞候、猶期吉事候、謹言、

(永祿七年)

九月三日

元就(花押)

小寺佐渡守殿

二〇 毛利輝元書狀

其表之樣牀申越得其意候、南条家中之儀不慮之次第

(山田重直)

候、山出事無異儀、至鹿野罷退之由可然候、元統事無別儀之旨、対元春可申理之由、此節之儀候条何と様二も調儀專一候、其方事最前已来之首尾候間、此時別而辛勞氣仕肝心候、其段不及申聞候、因・但之趣是又承知候、何も重々元春可令相談候条、時宜可申聞候、謹言、

九月十七日

輝元(花押)

小寺佐渡守殿